

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2016年 8月 31日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	ELI Business seminar	派遣先大学:	イエール大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

アメリカ東部コネチカット州のニューヘブーンにあるアイビーリーグの名門校。法学、政治学等で特に有名。ニューヨークから車で二時間ほどの場所にあり、ボストンにも日帰りで行ける距離。

参加した動機

英語力の強化、将来的にはビジネススクールの準備のため

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

ウェブサイトに必要な最低限の情報が載っているが、途中から大学とのやりとりになると英語になり、やや手続きが難しくなる。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

種類はF1ビザ。I-20の受領後すぐにウェブのフォームを埋めて大使館の面接予約をしたため4月中にはすべての手続きが終わった。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特にしていない。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東京大学側、イエール大学側双方から加入を義務付けられるのでそれに従って手続きすればよい

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特にしていない。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

英会話教室に通っていた。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
電子辞書、デビットカード、PC、防寒着 基本的には現地でも買えるのでそこまで心配しなくてよい。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
午前中にビジネスの授業。MBA2年間で6週間にまとめたものであると最初に言われる。時間が短すぎるため、内容は薄くなってしまいが、毎回大量のリーディングの宿題を出され、英語力がかなり身につく。 午後は1日置きにライティングとスピーキングの授業。こちらは午前中と比べるとそこまで負担は重くない。
②学習・研究面でのアドバイス
かなり宿題の量が多く、プログラムの内容の復習の時間があまりとれないと思う。その分に関しては帰国してからまとめて復習の時間をとるとよいと思う。
③語学面での苦勞・アドバイス等
リーディングの量が相当多いためあらかじめ長い英文を読むことに慣れていないと相当苦勞すると思う。 また、参加学生のレベルは高く基本的に皆普通に話せるのですごく刺激になる。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
一部屋を二人でシェアし、運がいいと一人で使える。空調がないため夜はかなり寝苦しいが僕はそこまで気にならなかった。洗面所が共同で部屋の外にあるのが不便。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
気候はとても過ごしやすいが、寮内の冷房は基本的に効きすぎて寒い。大学から出るとあまり治安がいいとは言えないため夜は一人で歩けない。交通機関は電車があるが、大学からは徒歩25分ほど。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は悪いがキャンパス内は基本的に安全だし夜は特にキャンパス外に出る必要もないため問題ない。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
ごはんはすべて出るため平日お金を使うことはほとんどない。休日は大学側が格安でニューヨーク等への小旅行を用意してくれるためそれを利用するとよい。6週間で使ったお金は4~5万ほどだと思う。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
大学より32万円の奨学金をいただいた。FUTIの奨学金は通らなかったがぜひ応募するとよいと思う。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

ジムがすぐ近くにあり無料で利用できるため、週2ほどで通った。あとは大学側が用意してくれる小旅行やイベントには積極的に参加した。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

生活面、精神面では充分であったとおもう。常にイエール大学の学生が面倒を見てくれて困ったときには相談する窓口もあった。語学面に関しては参加大学生のレベルが高く、皆普通に英語を話せるので事前に準備をする必要はあると思う。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

どれもとても充実している。図書館は冷房が効きすぎているためあまり利用しなかったが、コピー等は安価でここで行うことができる。スポーツ施設は大学のジムに無料で入ることができ設備もすばらしいが、運動靴を持っていく必要がある。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

とにかく参加大学生のレベルが高いため、英語力に関して日々成長の必要性を感じる。宿題も膨大な量があるため、6週間であっても十分に英語力の成長を感じることができた。さらにアジアではなく中東、ヨーロッパ、アメリカ、南米など世界中の学生と交流する機会が得られるため、世界中の情勢に関して生の声を聞くことができ非常にためになる。授業に関してもビジネスに関する基本知識を学ぶことができとてもよくなったプログラムだと思った。

②参加後の予定

通常の学校生活に戻り、就職に備えて単位の取得に励む予定。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

英語が苦手な人にとってはとてもいい機会であると思う。費用が高いのが問題だが、将来ビジネススクールを考えている人はぜひ参加してみるとよい。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特にない。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。